



Title	Gallia 57号 会員研究活動報告
Author(s)	
Citation	Gallia. 2018, 57, p. 141-149
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/69861
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

会員研究活動報告

(2017年1月1日～12月31日)

アヴォカ・エリック

論文

・ La démocratie poétique de Christian Prigent. Tumultes et mouvements divers à l'assemblée des mots (Bénédicte Gorrillot, Fabrice Thumerel (dir.), *Christian Prigent : trou(v)er sa langue*, Paris, Hermann, pp. 281-296)

・ Les hommes d'argent, l'argent dans la société : fortune théâtrale d'un type dramatique et d'une question politique au XVIIIe siècle (*Gallia*, n° 56, 大阪大学フランス語フランス文学会, 3月, pp. 41-50)

口頭発表

・ *De l'usage des conflits en démocratie : fureurs et mystères de l'art oratoire pendant la Révolution française* (colloque international *Transitions au pays de la civilité*, organisé par le Département de langue et littérature françaises de l'Université Nationale Centrale de Taiwan, et le groupe *Transitions* (Université Paris-3 Sorbonne-Nouvelle), Taipei, Taiwan, novembre)

足立 和彦

単著

・『モーパッサンの修業時代 作家が誕生するとき』(水声社, 361p., 10月)

論文

・モーパッサンと戦争: 復讐の意味するもの(『名城大学人文紀要』, 52巻3号, 第114集, pp. 1-16, 3月)

書評

・ピエール・スヴェストル, マルセル・アラン著『ファントマ』, 赤塚敬子訳(風濤社)(『図書新聞』, 3321号, 10月7日)

安達 孝信

論文

・『パリの胃袋』のチーズ交響曲をめぐる自然主義のポエジー: バルベールによる批判とユイスマンスの擁護(*Gallia*, n° 56, pp. 51-60, 3月)

口頭発表

・ゾラ『クロードの告白』における「郊外」から「自然」への道—ゴンクール兄弟『ジェルミニ・ラセルトゥー』書評を通して(日本フランス語フランス文学会秋季大会, 名古屋大学, 10月28日)

阿南 婦美代

単著

・『仏検対策「聴く力」演習』2刷(駿河台出版社, 3月)

・『私のホームステイ』3刷(白水社, 3月)

安藤 麻貴

口頭発表

・カミュ後期の著作における植物の表象と「再生」のテーマ(第81回大阪大学フランス語フランス文学研究会, 大阪大学, 10月7日)

- ・カミュ『最初の人間』創作への行程—植物の表象をめぐって（日本フランス語フランス文学会中国・四国支部大会，徳島大学，12月9日）

井上 直子

論文

- ・セザンヌの現代性—メルロ＝ポンティの評論から（『大阪教育大学紀要』第一部門，第65巻第2号，2月）

井元 秀剛

単著

- ・『中級フランス語—時制の謎を解く』（白水社，9月）

岩根 久

共著

- ・「フランス語初級文法クラスのプチ活性化—反転授業的活動の導入事例」(『アクティブラーニング型授業としての反転授業 [実践編]』森朋子・溝上慎一編，ナカニシヤ出版，pp. 127-137, 5月)

研究資料

- ・コーパス分析ソフト CasualConc の活用 (1) —ロンサールの論説詩とプロテスタント詩人による版ロンサール詩を例として，(『ロンサール研究』, 日本ロンサール学会，30号，pp. 139-145, 8月)

口頭発表

- ・反ロンサールパンフレットの計量的特徴の再検討（統計数理科学研究所共同研究グループ・統計数理研究所言語系共同研究グループ合同発表会「言語研究と統計 2017」, 統計数理研究所，3月28日）
- ・テキスト理解のために計量的手法を—Mac用フリーソフト CasualConc を用いたラブレールとモンテーニュの語彙の比較を例に（ラブレール・モンテーニュ研究フォーラム，東京大学，6月3日）
- ・語彙計量的手法を日常のテキスト分析に（2）—頻度の可視化について（日本ロンサール学会 2017 年度大会，同志社びわこリトリートセンター，8月12日）

上江洲 律子

口頭発表

- ・マルロー作品における身体性の表象—『侮蔑の時代』（1935）をめぐって（日本フランス語フランス文学会秋季大会，名古屋大学，10月28日）

植村 実江

論文

- ・スタール夫人『ルソーに関する書簡』における天才の概念（『待兼山論叢』，第51号文学篇，pp. 101-116, 大阪大学文学部 [編]，12月）

口頭発表

- ・スタール夫人における天才像（大阪大学フランス語フランス文学会第81回研究会，大阪大学，10月7日）

柏木 加代子

翻訳・解説

- ・ジャンヌ・バム『フロベール コンテンポラリーなまなざし』（水声社, 235p., 5月30日）

辞書項目
(辞書)

- ・ *Dictionnaire Flaubert*, Gisèle Séginger, dir., Éditions Honoré Champion, novembre 2017 の5項目担当 : «Mme Dambreuse (Mme)», «Dambreuse (comte d'Ambreouse)», «Dupuis (Léon)», «Comique», «Comédie»

エッセイ

- ・パリの青春 — シスター・ベアタを偲ぶ（『ゆうばえ』第4号, 鳴滝書房, pp. 7-9, 12月15日）

その他

- ・「フロベールとボザール教授ボナ」『日仏文学・美術の交流』（思文閣出版, 2014年）が、2017年12月25日に、以下のフロベール・サイト（Rouen dans le site Flaubert）で公開。Cf. Bulletin Flaubert, n° 194 (12 janvier 2018) にも記載。
KASHIWAGI Kayoko, «Gustave Flaubert et Léon Bonnat : quelques aspects de l'impressionnisme et du japonisme de Flaubert», dans *Les échanges culturels entre le Japon et la France : autour de la collection japonaise d'Emmanuel Tronquois*, Kyoto, Shibunkaku, 2014, pp. 243-261 (mise en ligne sur le site Flaubert, 25 décembre 2017)
- ・フロベール・サイト上の『フロベール書簡』（2017年11月開設）における「1875年3月15日付け姪カロリース宛て書簡」の日付けに関して、柏木の見解が注記された。以下の項目“I-Notice”を参照。
<http://flaubert.univ-rouen.fr/jet/public/correspondance/trans.phpcorp us=correspondance&id=12421>

柏木 隆雄

単著

- ・『心の中の松阪』（夕刊三重新聞社, 4月17日, 239p.）
- ・『こう読めば面白い フランス流日本文学』（大阪大学出版会, 6月12日, 340p.）

編著

- ・『関西バルザック研究会 100 回の歩み』（関西バルザック研究会, 12月15日, pp. 3-14. 総頁 90）

エッセイ・
その他

- ・玻璃のグラス（『ゆうばえ』第2号, 鳴滝書房, 2月, pp. 13-14）
- ・温厚にして明敏な秀才（*GALLIA*, n° 56, 大阪大学フランス語フランス文学会, 3月4日, pp. 96-97）
- ・精悍、緻密な学者魂（*GALLIA*, n° 56, 大阪大学フランス語フランス文学会, 3月4日, pp. 106-108）
- ・2016年度の手前前大学院（『大手前比較文化学会会報』第18号, 3月31日, pp. 1-2）
- ・大手前大学の6年間（*AMAMUS OTEMAE*, n° 6, 大手前大学, 2016年5月31日, p. 1）
- ・形見のブローチ（『ゆうばえ』第3号, 鳴滝書房, 7月15日, pp. 47-49）

口頭発表・
講演

- ・ひょうたんから駒（桂文我，笑福亭生喬，柏木隆雄「三人会」プログラム，7月17日）
- ・三重同工会の平成28年（『赤壁』第91号，三重同工会，9月1日，pp. 2-3）
- ・柳の下にもう一匹？（桂文我，柏木隆雄「二人会」プログラム，11月9日）
- ・「放送大学大阪学友会・同窓会」の新しい門出に（『おおさか』第31号，放送大学大阪学友会・同窓会，11月12日，pp. 1-2）
- ・座談会『神社と花街』寺井天満宮司，高井住吉大社宮司，津江今宮戎神社宮司，大和屋女将と。司会担当（『やそしま』第11号，（公財）関西・大阪21世紀協会 上方文化芸能運営委員会，12月1日，pp. 1-29）
- ・「どうこういせ」に寄せて（『どうこういせ』第32号，三重同工会伊勢支部，12月10日，pp. 2-3）
- ・母の卒寿（『ゆうばえ』第4号，鳴滝書房，12月15日，pp. 19-21）
- ・フランス象徴派詩人ヴェルレーヌはどう日本語に移されたか？（三日仏協，放送大学三重学習センター共催，三重県総合文化会館，6月18日）
- ・漂泊の詩人三好達治の詩と人生（「武庫川倶楽部」講演，宝塚ホテル，7月12日）
- ・フランス文学は色っぽい？（講演「桂文我・笑福亭生喬・柏木隆雄三人会」，松阪産業振興センター大ホール，7月17日）
- ・フランス文学は色っぽい？—その2（「桂文我・柏木隆雄二人会」，国立文楽劇場小ホール，11月9日）
- ・バルザックとLa Chine（日本フランス語フランス文学会中国・四国支部会特別講演，徳島大学，12月9日）
- ・バルザック『禁治産』における「中国」—なぜデスパール侯爵はシノログとされたか？—（関西バルザック研究会，近畿大学会館，12月23日）

川上 紘史

口頭発表

- ・パスカルにおける意志に基づく認識について（第6回関西学生フランス文学研究会，関西学院大学，8月31日）

北村 卓

編著

- ・『表象と文化 XIV』（大阪大学言語文化研究科「言語文化共同プロジェクト2016」，78p.，5月）
- ・『フランスを読み解く鍵 第2巻（改訂版）』（アシェット・ジャポン，83p.，10月）

共編著

- ・『実用フランス語技能検定試験2017年度版5級 仏検公式ガイドブック』（フランス語教育振興協会編，第1部，pp. 1-110，4月）

- 論文
 - ・『フランスを読み解く鍵 第3巻』（アシェット・ジャポン, 89p., 4月）
 - ・Perspective on Baudelaire's Reception in Japan from the Meiji Era to the Present (*AmeriQuests*, Vol. 13, No 1, University of Vanderbilt, Nashville, pp. 28-33, 3月)
 - ・宝塚歌劇とテロリズム—近年の演目をめぐって（大阪大学言語文化研究科「言語文化共同プロジェクト2016」『表象と文化XIV』, pp. 43-50, 5月）
 - ・ボードレールと日本の文学／文化（『びーぐる 詩の海へ』36号, pp. 30-34, 7月）
 - ・Baudelaire dans le monde littéraire japonais (*L'Année Baudelaire*, n° 21, Honoré Champion, Paris, pp. 199-206, 12月)
- 講演
 - ・La France de la Revue Takarazuka (IV^e Congrès régional de la Commission Asie-Pacifique, Fédération internationale des professeurs de français, 京都大学, 9月22日)
 - ・宝塚歌劇のフランス・イメージ戦略—『モン・パリ』『ベルばら』から現代まで（立命館大阪プロムナードセミナー「大阪・京都文化講座」, 立命館大阪梅田キャンパス, 10月30日）
- 対談
 - ・ラフカディオ・ハーンとフランス文学（富山大学中島淑恵教授と, 日本フランス語フランス文学会中部支部大会, 富山大学, 12月2日）
- 講義
 - ・文化外交としての宝塚歌劇—海外公演をめぐって（明治大学リレー講義「情報コミュニケーション学—トランスナショナルコミュニケーションにおける文化の伝達」第13回, 12月18日）

小林 宣之

- 共著
 - ・中村真一郎に蘇るネルヴァル：演劇の魔（二）（『中村真一郎手帖12』, 水声社, 2017年4月）
 - ・『日仏アニメーションの文化論』（水声社, 大手前大学比較文化研究叢書13, 2017年12月）

小山 美沙子

- 共著
 - ・『Roseau pensant—citations で学ぶフランス語』（あるむ, 3月）
- コラム
 - ・ロザース (*Artes MUNDI*, Vol. 2, 名古屋外国語大学ワールドリベラルアーツセンター, 3月)
 - ・言葉文化—フランス語との出会いを大切に！（*PIAZZA*, Vol. 2, 名古屋外国語大学出版会, 9月）

坂巻 康司

- 口頭発表
 - ・都市へのまなざし—ボードレールからマラルメへ（連続シンポジウム『象徴主義とは何か』第一回「象徴主義と＜風景＞—ボードレールからブルーストまで—」, 東北大学, 9月30日）

- ・演劇への夢—ヴィリエ・ド・リラダンからマラルメへ（『マラルメ・シンポジウム 2017』, 神戸大学, 12 月 16 日）

高岡 尚子

書評

- ・A・コルバン, J-J・クルティース, G・ヴィガレロ監修『男らしさの歴史』Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 鷺見洋一, 小倉孝誠, 今村傑監訳（藤原書店）（『ふらんす』12 月号, 白水社）

口頭発表

- ・ジョルジュ・サンドと二月革命—フェミニズムと「その後」を考える（第一回「革命／内乱とジェンダー」研究会, 駒澤大学, 9 月 17 日）
- ・「男らしい男」と「女らしい女」の間 —George Sand の小説 *André* を題材に（日本フランス語フランス文学会 2017 年度秋季大会ワークショップ「19 世紀フランス文学における『男らしさ』の危機」, 名古屋大学, 10 月 29 日）
- ・薄暗い、本の咲く谷間から—文学・フランス・ジェンダーをつないで語りあう（奈良女子大学／神戸女学院大学共同ジェンダーシンポジウム「女子大学で文学を！？」, 奈良女子大学, 12 月 1 日）

武田 裕紀

論文

- ・デカルトにおけるディメンジョン概念—空間概念との関係において（『理想』第 699 号, 理想社, pp. 86-98）.
- ・デカルトによる『二項数の立方根の考案』の伝承について（*Gallia*, n° 56, pp. 31-40）

書評

- ・シェイピン他『リヴァイアサンと空気ポンプ——ホップズ、ボイル、実験的生活』吉本監訳／柴田・坂本訳（『科学史研究』第 56 巻第 281 号 4 月号, 日本科学史学会, pp. 66-69）
- ・山上浩嗣『パスカル『パンセ』を楽しむ 名句案内 40 章』（『フランス哲学・思想研究』第 22 号, 日仏哲学会, pp. 334-336）

口頭発表

- ・デカルトにおけるディメンジョン概念—空間概念との関係において—（京都哲学史研究会, 楽友会館, 3 月 25 日）

寺本 成彦

論文

- ・クリストフ・オノレ『美しい人』における歌の機能—登場人物の心理・行為の動因としての歌詞の意味作用—（『ヨーロッパ研究』第 12 号, 東北大学大学院国際文化研究科（旧）ヨーロッパ文化論講座, pp. 23-51, 3 月）

講演

- ・神代辰巳初期映画における「気の強い女」の系譜をめぐって（右岸の羊座シネマテーク—日集中講座, ラブミー牧場, 9 月 30 日）

林 千宏

共編著

- ・『フランス語を読み解く鍵 第 3 巻』（アシェット・ジャポン, 4 月）

春木 仁孝

論文

- ・直喩的な日本語・隠喩的なフランス語（『時空と認知の言語学』VI,（言語文化共同プロジェクト 2016）, 大阪大学大学院言語文化研究科, pp. 31-40, 5 月）

書評

- ・Achard, M. (2015), *Impersonals and other Agent Defocusing Constructions in French*, Benjamins（『フランス語学研究』第 51 号, 日本フランス語学会, pp. 91-93, 6 月）
- ・出口優木（2016）, 『連想照応の可能性—フランス語の用例から』朝日出版社（『フランス語学研究』第 51 号, 日本フランス語学会, pp. 93-95, 6 月）

口頭発表

- ・Ça sent bon la mer! 「海のいい匂いがする」—ça を主語に取る構文について（大阪大学フランス語フランス文学会研究会, 大阪大学, 3 月 4 日）
- ・直喩的な日本語・隠喩的なフランス語（西南学院大学, 7 月 29 日）
- ・ça を主語とする発話の意味（西南学院大学, 7 月 29 日）

廣田 大地

口頭発表

- ・フランス詩を用いたフランス語学習 WEB サイト「ばえふら」の設計と構築（教育システム情報学会 2016 年度第 5 回研究会, 愛媛大学, 1 月 7 日）
- ・フランス語学習 ICT コンテンツの共有のために—フランス語動詞活用表 WEB ページ「フラ動」を例に—（第 15 回 e-Learning 教育学会, 沖縄大学, 3 月 18 日）
- ・ボードレール散文詩における他者という風景（連続シンポジウム「象徴主義とは何か」第 1 回：象徴主義における＜風景＞, 東北大学, 9 月 30 日）

その他

- ・ボードレール『悪の華』を読み解く（NHK 文化センター梅田教室 短期講座, 1 月 13 日, 2 月 23 日, 3 月 25 日）

道廣 千世

口頭発表

- ・ロマンティック・パレエにおける男の美醜とニジンスキー（第 6 回関西学生フランス文学大会, 関西学院大学, 8 月 31 日）

森 康晃

口頭発表

- ・ピアノラを弾くアルベルチヌ（関西ブルースト研究会, 京都大学, 12 月 16 日）

山上 浩嗣

共著

- ・『新・フランス語文法（三訂版）』（朝日出版社, 1 月）

- 共著・監修 ・『2017年度版 仏検公式ガイドブック 準1級』（第1部担当 pp.13-166）（公益財団法人 フランス語教育振興協会（APEF）[発売：駿河台出版社]，4月）
- 共訳 ・エレーヌ・ミション「空しさ——聖書とその文学的変奏」（『思想』第1122号（2017年10月号），岩波書店，pp.129-151，9月）
- 翻訳 ・ディドロ『サロン』抄訳（2）（『大阪大学大学院文学研究科紀要』第57巻，pp.35-96，3月）
- 書評 ・フィリップ・セリエ著『聖書入門』支倉崇晴・支倉寿子訳（『ふらんす』6月号，白水社，p.70，5月）（<http://webfrance.hakusuisha.co.jp/posts/94>）
- ・保刈瑞穂著『モンテーニュの書斎——『エッセー』を読む』（講談社，2017年）——『エッセー』の魅力を、語りかけるような文体で説く（『図書新聞』第3319号，9月9日）
- エッセイ ・連載「寝るまえ5分のパスカル『パンセ』入門」（『ふらんす』白水社）（<http://webfrance.hakusuisha.co.jp/categories/2/>）：
第1回「信仰と理性」、2017年4月号，pp.74-75，3月
第2回「天使と獣」、2017年5月号，pp.44-45，4月
第3回「夢とうつつ」、2017年6月号，pp.44-45，5月
第4回「固定点」、2017年7月号，pp.44-45，6月
第5回「〈王政〉と精神の自由」、2017年8月号，pp.44-45，7月
第6回「身体と人間の有限性」、2017年9月号，pp.46-47，8月
第7回「習慣と直感」、2017年10月号，pp.46-47，9月
第8回「狩りと獲物」、2017年11月号，pp.46-47，10月
第9回「正義の不在」、2017年12月号，pp.46-47，11月
第10回「政治と慈愛」、2018年1月号，pp.46-47，12月
- 口頭発表 ・パスカル『パンセ』入門——「考える葦」から「賭け」へ（空気調和・衛生工学会近畿支部記念講演，ガーデンシティクラブ大阪（ハービス OSAKA 6階），5月19日）
- ・パスカル『パンセ』入門——「考える葦」から「賭け」へ（ラスタ教養大学・言葉文化コース，伊丹ラスタホール（伊丹市立生涯学習センター），10月16日）
- 和田 章男
- 論文 ・Illiens dans la genèse de «Combray» : la photographie et la mémoire (Proust et Alain-Fournier. *La transgression des genres 1913-1914*, Honoré Champion, pp.27-35, 27 mars)
- 共編著 ・『新・フランス語文法（三訂版）』（朝日出版社，1月）
- 口頭発表 ・ブルーストとワーグナー批評（関西ブルースト研究会，京都大学，2017年4月1日）
- 講演 ・パリが変わる！ーパリ大改造と詩人ボードレールー（リーガクラブ講演会，リーガロイヤル・ホテル「桐の間」，6月14日）

- ・ヴェルサイユ宮殿を巡る — バロックからロココへ — (エコールドロイヤル「世界遺産—歴史と文化を巡る旅：フランス (1)」, リーガロイヤルホテル「梅の間」, 7月12日)
- ・ナポレオン神話とモニュメント (エコールドロイヤル「世界遺産—歴史と文化を巡る旅：フランス (2)」, リーガロイヤルホテル「梅の間」, 8月2日)
- ・モダニズムの詩 — エッフェル塔とミラボー橋 — (エコールドロイヤル「世界遺産—歴史と文化を巡る旅：フランス (3)」, リーガロイヤルホテル「梅の間」, 9月13日)